

料金後納

ゆうメール

# MACNEWS

〒616-8156

京都市右京区太秦西野町20

TEL 075-871-0374. FAX 075-882-3777

Eメール mac.terakoya@gmail.com

URL <http://www.mac-terakoya.com>

## 今月号の内容

### ※ 社会に出たときに求められる5Sとは？

当たり前のことを当たり前に実行することができるの？

### ※ 食品偽装問題も結果だけを追い求める風潮の現れ！

とにかく売ればいい、結果が出ればいい

### ※ 良い親、ダメな親、普通の親！！

うちの子、素直じゃないのよね(>\_<)



「イヤー、まいりました！書類をとじたファイルが逆さまに入れてあるんですよ」  
取引先の銀行の支店長が呆れたように言いました。

「この頃の若い人は、勉強は出来るのですが、整理・整頓が出来ないですね」

多くの企業では5S活動をしています。

例えば、

- ・挨拶をキチンとする
- ・使用したものは必ず元の位置に戻す
- ・時間を守る
- ・約束したことは必ず実行する e t c

社会人として当たり前なことなのですが、この当たり前を実行できていないことが多いのです。

5S活動が職場の管理レベルやモラルを表しており、徹底されている職場の社員は仕事のやる気やモチベーションが高いという結果が出ており、仕事の改善点を見出し、作業の効率化を促す効果があることから、この活動が重要視されているのです。

**5Sとは、整理・整頓・清掃・清潔・躰の頭の文字をとったもの**です。

教室でも、借りた参考書をもとの位置に返却するように指導していますが、参考書の使い方が荒っぽいために直ぐにボロボロになってしまいます(;\_;

また、本の貸し出しをしていますが、1週間の期日を守らずに1か月借りっぱなしの子もいます。

ところで、この5S意味を知っているだけで、

「この人よく分かっているな」

「勉強しているな」

「きちっと教育受けているな」

と、思われるのですが・・・・・・

ぜひ、お子さんと一緒に覚え、習慣になるように取り組んでくださいね。

それでは、この五つについて説明していきます。

- ①「整理」・・・必要なものと必要でないもとを分けて、必要でないものを捨てること
- ②「整頓」・・・必要なものだけを、置き場を決めて“表示”すること  
誰が見ても分かるように
- ③「清掃」・・・身の回りの物や部屋をきれいに掃除すること
- ④「清潔」・・・衛生的に保つこと  
いつ誰が見ても、誰が使っても不快感を与えぬようにきれいに保つこと  
(「人の行動」や「人へのストレスの軽減」などの意味を持つことも)
- ⑤「躰」・・・「ルール」や「規律」を守ること  
決めたことを必ず守るように徹底すること  
「挨拶」「礼儀」など

MACでも、上記の①～⑤の徹底を前提に、毎月1回はこちらで各自の引出を整理しておいたり、また指導するのですが、すぐに引出の中がグチャグチャに(T\_T)

引出の中を常にきれいに保つことが出来ている子は、勉強でも結果を出しています。

結果を出せていない子の場合は、机の上も周りも消しゴムのかすだらけ、どうも気にならないようです。

企業が5Sを徹底することによって業績を上げているのも「なるほど」とうなずけます。

## 『いい大学』を目指して小中学校の頃から受験勉強にいそしみ、晴れて合格すればそこで人生における『学び』は終わるー

日本人は長い間、こういう学習モデルを当然のように受け止めてきました。しかもその入試は専らペーパーテストによって知識を問い、一発勝負で合否が決まるのです。

18歳のある一日で！

このような大学入試を前提に、『結果さえ良ければ』の元、中間期末テスト対策授業や更には中間期末テスト当日早朝補習などが多くの学習塾で実施されています。

これって、本当に子ども達のためになります？

このように楽をして、結果を追い求めることが社会でも起こっています。

即ち、昨今新聞紙上を賑わせた「食品偽装問題」の『とりあえず売ればいい』という風潮やスポーツにおける『とにかく勝てばいい』至上主義、そして1月号にも記載した『うまく書くには手段を選ばない』書写指導なども、楽な道に走る社会が映し出されているのではないのでしょうか？

ところが、ここにきて、**従来の入試システムでは多様な人材を取りこぼし、偏差値エリートばかり増えると指摘されながら遅々として進まなかった大学入試改革案が、政府の教育再生実行会議において野心的な提言としてまとめられた**のです。

改革案は、共通1次を引き継いだ現行の大学入試センター試験を廃止し、『**達成度テスト**』を創設するのが、その柱の一つとなっています。

テストには『基礎』と『発展』を用意し、いずれも高校在学中に複数回受験でき、『発展』は大学入学のための資格試験として位置づけされることとなります。

そして、「入りにくく出やすい」大学教育の中身にも改革を求め、卒業認定の厳格化を打ち出し、『入れても出にくい』大学への転換を促しています。

「入試合格が人生の目標」という風潮が変わるのは必至であると考えています。

この結果、高校教育が大きく変わることは想像に難くありません。

このように教育が大きく変わってくるのに、目先の結果だけに視点を置き、楽な道を選んでいけば困った事態を招くのは目に見えています。

## 「すぐに役に立つことは、すぐに役立たなくなる」

この言葉を肝に銘じなければなりません。

今の小学生が大学入試を受けるころには、間違いなく大学入試改革が断行されています。その時に困らないように、「勉強の仕方」「考え方」を会得しておかなくてはなりません。

MACの授業システムは、常に先を見据えています。どのような入試改革がなされようとも困ることはありません。

### 「うちの子、本当に素直じゃないのです！」

それは日頃の親子の会話に原因があるって考えられたことはありません？

ダメな親・・・子どもとの会話が少ない

普通の親・・・子どもの話に耳を傾けている

良い親・・・会話から子どもの「よいこと」を探してほめる

「親子で育脳トライアル」の主たる目的は、共通の問題をやることにより楽しく親子の会話を促し「親子のコミュニケーション」を充実させることにあります。

ところが、「またか！ 面倒くさいなってお母さんに言われるわ！」という生徒がいるのです。

子どもの精神を安定させ伸ばす基本は、「きちんとした生活習慣」と「親子のコミュニケーション」の充実にあるのです。

なぜこのような取り組みをしているのかの真意を理解して欲しいものです。

子ども達は日々成長しています。従って親のとるべき態度は、子どもの成長を見守ってやることなのです。

親が口やかましく、自分の思い通りにしようと思っても、決して思い通りにはなりません。よく考えて下さい、自分自身が自分の思い通りになっていない現実を。それなのに、なぜ子どもを自分の思い通りにしようとするのですか？(自戒の念も入っています m(\_ \_)m)

人を変えようと思えば、相手が子どもであっても、まず自分自身を変えなければなりません。

子どもの成績があまり芳しくない。その全責任を子どもに持って行っていませんか？

「きちんとした生活習慣」親自身が出来ていますか？

親自らが学生時代からどっぷりつかっている夜型生活から抜け切れていないのではありませんか？

朝ご飯も、抜いているか食べてもパン1枚程度ではありませんか？

**「生活習慣」の基本は、「早寝・早起き・朝ご飯」**です。

夜更かしと朝食抜きでは、日中、ボツとしていることが増え、授業にも身が入りません。それだけでなく、イライラして切れやすくなったり、うっかりミスも多くなります。

MACでも、授業中度々あくびをしたり、ボツとしていることの多い子がいますが、親と同じく不健康な循環に陥っているのでは・・・

成績結果ばかりでなく、生活習慣の見直しをして欲しいものです。

子どもを伸ばしたいのであれば、朝型の生活に切り替え、朝ご飯をしっかり食べることを習慣として下さいね。

子ども達は、親とのコミュニケーションの中で様々な知識を得ます。が、家での会話が無いのではと思えるような事例によく出会います。

「閏年って知っているやろ？」

「何、それ？」

「オリンピックが4年毎に開かれるのを知っているよね、閏年の時や！」

「・・・・・・・・」

「それじゃ、<sup>に</sup>・<sup>し</sup>・<sup>む</sup>・<sup>く</sup>・<sup>さむらい</sup>は？」

「・・・・・・・・」

こんな話、この頃家ではしないのですかね～？

ご家庭での会話を増やすには、「なるほど」「すごい」といった相槌を打ちながら、話を最後まで聞くという姿勢が大切なのです。

ほめるところがあれば、前向きに評価してくださいね。

**自分の言葉を受け入れてもらうことにより、子どもは何でも話すようになり、そして、親の言うことも素直に受け入れるようになるのです。**

～ドブリー デン（こんにちは）

今回紹介する国は、**スロバキア**。

よく似た名前にスロベニアという国もありますが、あちらはクロアチアの隣りにある、旧ユーゴスラビアから独立した国です。

対してこのスロバキアは、いわゆる東欧（中欧？）に位置する小さな国。

『チェコ＝スロバキア』という国名の方が我々には耳慣れているかもしれませんが、じっさい私が学生の頃にはチェコスロバキアとして習いましたが、90年代初めに現在ある2つの国に分離・独立しました。（『ビロード離婚』とは、なんて粋なネイミング！）

国土は北海道にも満たないほどの面積で、隣国のウィーンから電車でたしか一時間ちょっとすれば、**首都・ブラチスラバ**に到着。ちょうど奈良から京都に行くようなものです。

ドナウ川が流れる市の旧市街区には、**ブラチスラバ城**があって、ゆるやかな坂道を、のんびり高台まで歩いて登れました。広々とした草地に城が建っており、そこから眼前の川を始め、立派な斜張橋やこの首都の市街が一望できました。

城から下って行って、おやっと驚き面白かったのが、市内を散策中のとき。

とつぜん男が街角からこっちに顔を出しているのに出くわします。よく見ると、望遠レンズの一眼レフを構えたねずみ色のパパラッチ、しかも生身の人間ではなく、等身大の**ブロンズ像**！そいつが建物の陰から、カメラを向けているではありませんか（笑）

他にも広場へ行くと、ベンチの背に前傾して肘をついている像が、——店先では、帽子をとって挨拶（店案内？）している紳士の像が、あるいは路上のマンホールからひょっこりヘルメット頭を出したおじさん像が、…… かく街中の所々で、我々歩行者をユーモラスにお出迎えしてくれます。私が遭遇しただけでも、五・六体はいました。なんとも微笑ましい、遊び心のある街づくりですね。 こういう街のおもてなしは、見聞した限り、ブラチスラバだけです。

ほかにも街の一角には、トラム（路面電車）が走っていて、学生街の近くなのか、大勢の若者が行き来していました。そのおかげでわかったのは、スロバキアの女子大生は、わりあい美人で小柄な人が多く、背丈や後ろ姿が日本人女性と似ていることです。

泊まった宿も、そういう界隈にあったからか、ドミトリー（相部屋）で同室になったのは（私以外）全員女性！ 別に頼んでもいないのに、気まずいハーレム状態…になったのも束の間、そのうちの一人から言いにくそうに「部屋を変えてもらえないか…」と頼まれ、こっちも何か迷惑な話でした。（ちなみに男女混合のドミトリーは、いまではもう珍しく、アジア以外ではほとんど見かけません）

それでは、今回はこの辺で ～ドヴィ デェニア